

■部会名：まちづくり部会

■部会長（有識者委員）：隼田 尚彦 委員

■市民委員：笹原 邦子 委員、佐藤 尚人 委員、名和 靖子 委員、深谷 亮一 委員、  
山崎 智行 委員

■意見の概要

**[今回配布資料に関する意見]**

- バス路線の本数はたくさんあるが、路線と路線との接続が悪く、ものすごく不便である。バスの便数を増やせないのであれば、せめてバス路線同士の接続をなんとかしてほしい。バスを使いたくても使えない現状があるので、軽自動車の台数が増加するのは当然である。実際にバスに乗って乗車地から目的地へスムーズに行くことができるかどうかを市できちんと調査するべきではないか。
- 高齢化対策として、車が使えなくなった方のために、今後マイバス（コミュニティバス）の考えはあるのかどうか。  
(⇒地方都市でコミュニティバスの例があるので、今後の公共交通検討会議の中で検討させていただきたい。)
- パーソントリップ調査を今後実施するのだろうか。  
(⇒ここ数年実施していないが今年度交通調査を実施するので、調査のやり方は、今後の公共交通検討会議の中で検討させていただきたい。)
- 野幌駅高架下の市の土地利用部分（15%）の中の連絡通路において、賑わいを創出するイベントへの活用は可能か。札幌の地下通路では、通路とイベント利用の部分が明確に分かれている。一時的なイベントで利用する時の手続きがとても複雑であるという問題がある。  
(⇒8丁目側のスペースは広く取ってあるため、多目的に利活用できるように検討を進めている。手続きについても複雑にならないように今後検討していきたい。)
- 連絡通路に隣接している駐輪場への入口について、高架下の連絡通路を通ることになるのか。  
(⇒駅前広場は人に優しい空間を目指し、できるだけ自転車が利用しないように啓発看板などソフト面での対応を考えており、駐輪場へ入る動線は今後検討していく。東西グリーンモールは、歩行者と自転車の通行帯を分けるので、その中で整理したい。)
- 野幌駅の北口、南口の歩行者が利用する資料の図のベージュ色の部分は、自転車の乗り入れを禁止すべきではないか。自転車が加害者になる事故が増えている現在、歩行者に優しい歩行スペースの確保は、ソフト面の対応だけでは難しいので、いろいろなやり方を今後調査・検討させていただきたい。
- 駐輪場の整備はいつ頃までに終わるのか。  
(⇒平成 24 年度、25 年度の今後 2 年ぐらいで整備したい。東西グリーンモールもこの

時に整備したい。鉄西線についても24年度から27年度にかけて順次整備していきたい。現在点在している自転車置き場については、高架下の駐輪場が出来次第、放置自転車の問題解決と併せて整備していきたい。)

### [マトリックス作業中の意見]

- 夢としての意見なら良いが、実現可能性という点から考えて無理であるような意見については、マトリックスから外していくという方向で作業を進めたい。
- 江別駅前に関する意見は、江別駅が建て直されることになった時に一気に動き出す話である。駅前の開発は、一体的に行うべきではないか。
- JRが利用しやすいというのは、JR駅までの交通の利便性にも絡む話であり、今後の公共交通機関の検討会議の状況による。
- 大麻までの地下鉄延伸は、札幌市でさえ地下鉄の経営が困難なので延伸はあり得ない。
- 江別全体で1か所に集まる場所が本当に必要なかどうか。ハード面で、1か所に集まるというのは一見効率的に見えるが、高齢社会で車を運転できないとか交通の利便性などを考えると、かえってサービスの低下になるのではないか。ソフトの面では、行政のワンストップサービス、コンビニサービスなどについては今後検討の余地がある。
- 既存の施設利用や野外のちょっとしたスペース（グリーンモールなど）で、美術作品の発表の場になり得る。野幌駅の中でも、壁一面だけではない展示スペースを設けるなど今後可能性があるのではないか。
- 大麻・文京台地区の学生の定着について、学校の近くの空いている学生アパートや家などを活用したベンチャービジネスの可能性はある。
- 駅周辺の商業スペース・飲食店については、今後の北側・南側の区画整理の進み具合をみないと分からないが、集積させて使いやすくするという事は可能ではないか。
- 賑わいの創出は、箱モノを造ったからといって生まれるものではない。相当頑張らないと費用対効果が生まれない。
- 駅周辺に賑わいの拠点があると市内だけでなく市外からも人を集めやすいのではないか。JRや国道沿線に機能を集約するコンパクトシティの考え方が示されており、こうした拠点に合わせたまちづくりは、費用面や高齢化社会への対応の面で合理的。
- 優先順位・必要性・重要性を考えると、江別での特急停車、札幌までの幹線道路の整備、白樺通りの275号線までの延伸は、不要ではないか。
- 大麻と文京台とをつなぐアンダーパスは、集中豪雨などで使えなくなると車の通行にとっては致命的である。それぞれに住宅街があるので、将来的に検討が必要ではないか。
- 都市近郊にある農村の特色について、新鮮な野菜を作っている農家やチーズを作っている酪農家があるのだから、ソフト面で生活の中にうまく活かせないか。やきもの市のような一方的なイベントではなく、江別に来た人も一緒になって体験できるようなイベントがあれば、集客の層が広がってよいのではないか。集客の対象となる相手をどこに置くべきかを検討してはどうか。

- 江別への集客について産業面がもっと強く打ち出されるとよいのではないか。今すぐできそうだが、長い期間をかけてでもうまく宣伝して、伸ばしていけないか。
- 財政状況を考えると、これまでと違った豊かさを求めるのであれば、市民協働が必要となってくる。
- 札幌の隣だからこれだけの人口規模になっているのであって、江別には「これ」というものが見えてこない。ただ、「これ」というものは本当に必要なかどうか。高齢化社会を迎えて札幌圏の中で利用できるものを利用して、いかに幸せに暮らしていくかを検討してもよいのではないか。
- 若い人がやるかどうか不明だが、札幌の隣に位置する都市型農業の良さを活かせないか。市場を通して売らなくても個別で販売できるような魅力を売りにできないか。
- 新篠津村のように、体験農園で農作物を作る喜びを味わうことから始めて定住につながるような取り組みができないか。
- 大学生が体験農場で繁忙期に働くことで単位を取れるような仕組みを作り、産業と大学が連携するような取り組みがあってもよいのではないか。生産から加工、宣伝までの連携の輪も大切である。
- 豊幌では若い人たちが農家をやっているので、こうした若い人たちの活力を伸ばしていくことが大切ではないか。
- シルバー人材センター以外に、高齢者が自分の畑で野菜を作ってレストランを行うなど、儲からなくても生きがいづくり・取り組みが市民協働の一つの形としてあってもよいのではないか。例えば、白老町の「グランマ」（山菜料理のコミュニティレストラン）のようにシャッター街をどうにかしようという高齢者のコミュニティビジネスの取り組みなど。
- 市民協働は、小さなことでも広がって長く続けば続くほど、江別の顔になっていくと思う。
- 次回以降での重点と今後の方向性として話し合っていくべきこと。
  - ・ 真の豊かさとはどういうことかということから、具体的に掘り下げてまちづくりを考えていくべきではないか。
  - ・ 江別駅前が現状として古くなってきているので、まちを再生するということが意見として出てきている。野幌駅の再生や駅と公共交通のあり方など将来を見据えて方向性を考えるべきではないか。
  - ・ 住んでいる地区の特徴に合わせながら、江別に住んでいる人が住みやすいように江別全体で考えていかなければならない。
  - ・ 人口が増えることは約束されていないので、全体を見ながら考えていくべきである。
  - ・ 短期的には、高齢化が進む中で買い物難民が出ないような配慮と公共交通機関の見直しが必要である。どの地域の人も大体同じような利便性になるように公共交通を考えて頂きたい。駅は地区の核になるものなので、中期的なもので終わることはなく、将来を見据えて単発的にならないようなハード面の整備をしていただきたい。

・既存の施設を有効活用してほしい。今あるものの活用は、意識の問題であり、時間のかからないところから徐々にまちづくりに取り組んでほしい。

- 人口減少、高齢化、住環境など難しい問題だらけであるが、市の方向性としてのコンパクトシティという考え方もあるので、部会としてうまく論点を着陸させなければならない。車に頼っている今の団塊の世代が、今後車に頼れなくなって10年後、20年後もずっと暮らしていかなければならない状況になる。どこにフォーカスを絞っていくかということ、理念的な軸がブレないように重点的に議論しなければならない。
- バスを使おうと思っても接続が悪くて使えない、バスの利用が少ないから補助金を出さず、さらに利用者がいないのでバス会社が撤退する。公共交通の悪循環からどう抜け出るか。バスの路線の接続を調整するだけで大分変わるし、高齢者もバスに乗ると思う。
- 公共交通については、住民に我慢していただかなければならない部分と我慢の限界との落とし所を詰めて、部会としてこういうまちづくりの方向性がありますか、ということを確認にして、市に提案しなければならない。
- 不便な所に住み続けることに疑問を感じて、最近では、都心回帰の動きがある。高齢者をターゲットにした、札幌の中心に北海道とは思えないぐらい小さなタイプのマンション建設の動きがある。利便性や安全・安心を求めているいろいろな動きがある。
- 大麻に限っては、札幌の中心にマンションを買って、それで空き家になっている状況がある。やがて江別や野幌もそういう状況になることが予想される。ただ、若い人たちに対して魅力的なまちになるように持って行ける可能性はある。
- 住んでいる場所での生活が厳しくなった時に、どこへ出て行くかが問題。市外へ出て行くのか、それとも市内の便利な所へ移り住むのか。江別のより便利な所に住むという潜在的な可能性を今後高めていけるような提案を市民レベルでできると良いのではないか。
- 買い物や駅という札幌近郊のメリットを考えたら、生き残りをかけて野幌などの駅周辺に集約の可能性があるのではないか。但し、農村地区を切り捨てるということではない。
- 江別だからこそ享受できる良い部分があるし、今はないけれどもちょっと整備すると札幌の中央区の外れやその隣の区と比べても十分に戦えるメリットが江別にあるので、衛星都市ということをうまく活用して江別は力強く生きていけるのではないか。
- コンパクトシティの中で利便性を求める層、広い土地で過ごしたいと考える層、様々な層の人たちの棲み分けができてくるのではないか。
- 段階的にまちづくりがこうなっていく、こういうメリットが生まれてくるという市民の目に見えるような計画であれば、集中した公共投資にも納得できるのではないか。
- 核になる部分とその周辺の部分の意味付けと整理をまちづくり部会として今後進めて行きたい。